

好事例の活用の在り方に関する インタビュー調査結果

dentsu
tokyo/osaka/nagoya

- 調査設計..... 3
- 対象者一覧..... 4
- 調査結果まとめ..... 5
 - 1. 普段の保育における課題・困りごとと解決策..... 6
 - 2. 普段の保育における課題・困りごとに対する解決策..... 7
 - 3. 研修の有無とその内容..... 8
 - 4. 事例参考の有無と具体的事例..... 11
 - 5. 事例の認知経路と今後の事例認知経路に対する要望..... 14
- インタビュー個票..... 15

	STEP1	STEP2																								
調査手法	幼稚園・子ども園の教員・保育士のヒアリング	一般モニターによる定量調査(WEB調査)																								
調査目的	STEP2:定量調査のための仮説づくりを行う	ヒアリングの定量的確認																								
対象者	<p>・幼稚園または子ども園の教諭・保育士 9人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>幼稚園</th> <th>子ども園</th> <th>保育所</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ベテラン</td> <td>3</td> <td></td> <td>2</td> <td rowspan="2">9</td> </tr> <tr> <td>新人</td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ベテラン:歴10年以上 / 新人:歴5年未満</p>		幼稚園	子ども園	保育所	計	ベテラン	3		2	9	新人	2		2	<p>・全国の幼稚園またはこども園の教諭または保育士 300ss</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>幼稚園</th> <th>子ども園</th> <th>保育所</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サンプル数</td> <td>140</td> <td></td> <td>160</td> <td>300ss</td> </tr> </tbody> </table>		幼稚園	子ども園	保育所	計	サンプル数	140		160	300ss
	幼稚園	子ども園	保育所	計																						
ベテラン	3		2	9																						
新人	2		2																							
	幼稚園	子ども園	保育所	計																						
サンプル数	140		160	300ss																						
実施日程	2023年1月19日～2月24日	2023年2月28日～3月6日																								
実施機関	電通マクロミルインサイト																									

	業態	インタビュー対象者 職階	勤務先の状況	インタビュー日時
①	私立保育所	保育所長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2才児までの保育 ・ 保育者は所長を含め8人 ・ 定員19人のところ、現在15人 	2023年 1月19日
②	私立幼稚園	年少クラス担任	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年保育 ・ 幼稚園教諭数は15人 ・ 年少は1クラス20人程度 	2023年 1月24日
③	私立幼稚園	年少クラス担任	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年保育 ・ 幼稚園教諭数は15人 ・ 年少は1クラス20人程度 	2023年 1月24日
④	私立幼稚園	園長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年保育 ・ 保育者は担任10人、フリー3人、ひよこ組2人 	2023年 1月26日
⑤	私立幼稚園	フリー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任をした場合は保育者1人で20人を担当 	2023年 1月26日
⑥	公立保育所	2才児クラス担任	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2才児クラスは園児5人に対して保育者1人を配置 	2023年 1月30日
⑦	公立保育所	4才児クラス担任	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4才児クラスは20人で、保育者1人+ 要保育の園児2人の加配が1人 ・ 正規の保育者10人、フリー3人 	2023年 1月30日
⑧	公立こども園	(2名同席) 2才児/4才児クラス担任	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者は50人+パート、体育教師など ・ 2才児クラスは15人、4才児クラスは21人 	2023年 2月15日
⑨	私立保育所	3才児クラス担当	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者は担任8人、フリー(パート)3人 ・ 3才児クラスは12人で2人の保育者で担当 	2023年 2月24日

■ 調査結果のまとめ

1. 普段の保育における課題・困りごとと解決策

- 保育現場での最大の課題は業務の忙しさおよび人員確保であり、忙しいからゆえに研修や事例学習の時間が十分に取れない状況につながっているといえる。
- その他、園児や保護者に対する対応の難しさや、ベテラン・同僚に相談しにくい環境下にあることも課題として指摘されている。園長、主任、新人保育者などそれぞれの立場での見方にとどまっていることで、コミュニケーションがうまくいかないケースも少なくない。

保育者の就業体制における課題

持ち帰り仕事が多い/残業の常態化

- ✓ 運動会など行事の飾りつけなどは通常業務内で処理できない
- ✓ 若い保育者はあれもこれもと思うため、要領を得ないため持ち帰り仕事になる
⇒ベテランになるほど、持ち帰り仕事前提の仕事はしなくなる
- ✓ 残業を良しとしない圧力がある

慢性的な忙しさ

- ✓ 保育者としての学びの時間を作ることができない
- ✓ 他の保育者の保育の仕方を見学する機会が作れない
- ✓ クラス担任になると、保育以外のいろいろな業務を一人でこなさなければならない

人員が足りていない

- ✓ 保育人員が足りておらず回っていない
- ✓ 忙しいことで、働き手に敬遠され、人員が確保できない

園児・保護者とのコミュニケーションにおける課題

園児一人一人に対する対応が難しい

- ✓ 園児も一人一人生身の人間なので、園児の状況等で対応が異なるために助言通りの対応とはいかない（相談しても適応できない）
- ✓ 時差出勤のため、他クラスをヘルプする際に園児のことをよく理解できないまま保育するのは怖い

保護者対応が難しい

- ✓ 交代勤務のため保護者に会えないこともあり、保護者とのコミュニケーションが取りにくい
- ✓ 若年層の保育者は保護者に子どもの発達のことなどを伝えにくい
- ✓ 新人担任では保護者対応は責任が重い

保育者・園の抱える課題

相談すること自体がうまくいかない

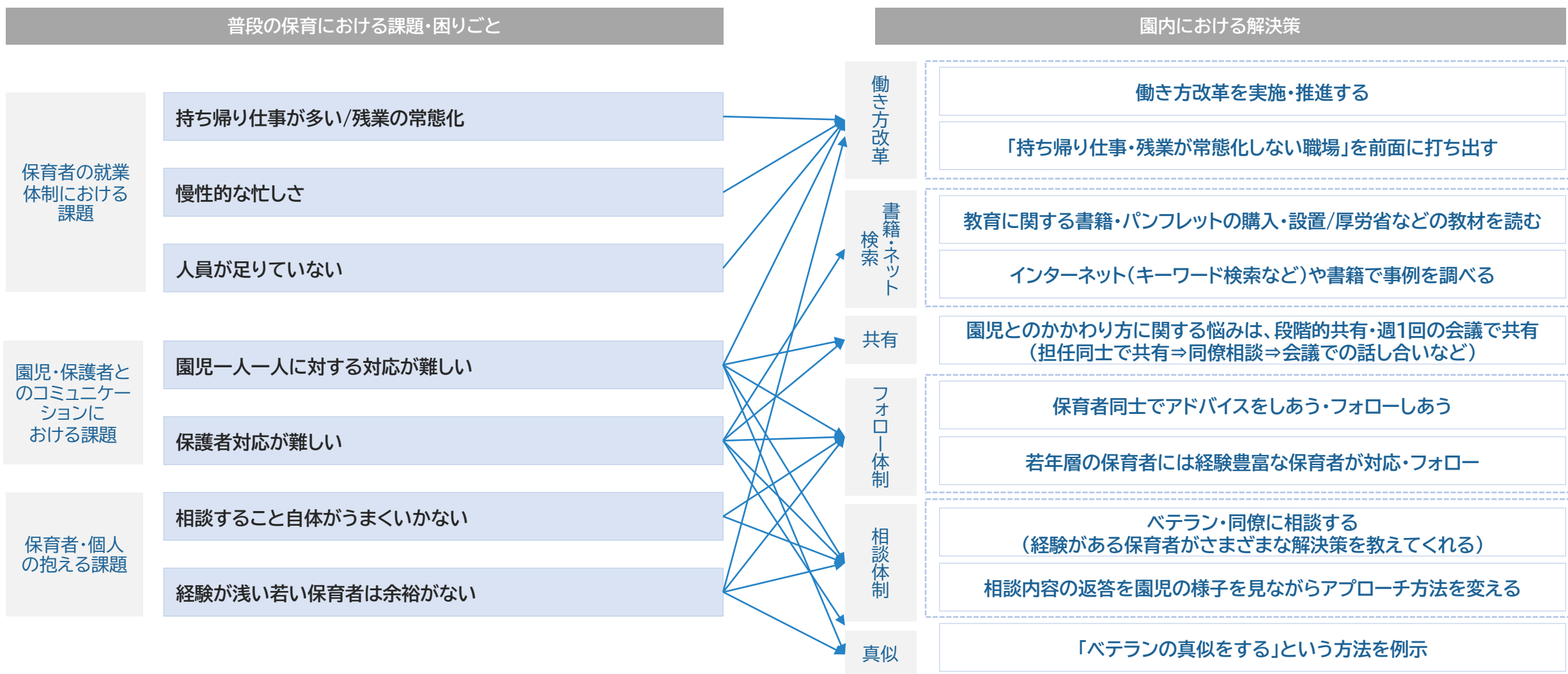
- ✓ 相談するにも状況説明がうまくできない（そもそも相談自体が苦手）
- ✓ 若年層の保育者からの相談が少ない
- ✓ 相談できる人はいるが、気軽に相談できる環境ではない

経験が浅い若い保育者は余裕がない

- ✓ 何に困っているのか本人も理解していない ⇒ 上層部も課題を把握しきれない
- ✓ 経験が浅いので、保育の引き出しや業務管理の対応など悩むことが多い

2. 普段の保育における課題・困りごとに対する解決策

- 保育現場、保育者の忙しさの軽減・解消のために、園では、園長を含めた園全体での「働き方改革」の意識を高める風土づくりが必要。
- 園児や保護者の対応などについては、「書籍・ネット検索」「保育者同士での共有」「保育者同士でのフォロー体制」「ベテラン・同僚への相談」「ベテランの真似」といった解決策がとられており、積極的に「研修」「事例」活用がなされている現場は少ないといえる。



3.研修の有無とその内容(まとめ)

- さまざまな団体や企業、行政が保育をメインに研修を開催し、参加できる状況にある(コロナ禍ではオンライン研修も開催されている)。
- 研修に参加することで、自分自身が知らなかったこと、日々の課題に対する対処方法の認知などメリットがある一方で、「研修で学んだことをそのまま実践に活かせることができない」「忙しすぎて研修自体に参加できない」などの課題も少なくない。

研修には参加できる・研修を自園で開催している園もある

研修の種類・開催機関

幼児教育関係団体が主催・開催する各種保育研修

自治体・各教育委員会が主催・開催する公的保育研修

自園が独自に行っている園内研修・他園見学研修

企業が開催する新人研修(社会人としてのマナーを学ぶ等)

等

研修参加の効果

- 外部講師を招く研修は自分の成長・学びのために有益
- 実際の体験・経験・現場を見学する・話を聞く研修は役立つ・納得・共感できる
- 研修内容は充実・多岐にわたるので、自分が興味やレベル・課題に合わせてテーマを選ぶことができる
- 研修に参加する=いろいろな対処方法を知る=対応選択肢が増える
- オンライン研修は時間がない場合も参加できる(忙しくても時間を作れる)

等

研修参加に向けた課題

- ▲ 業務の人員不足で、研修に参加しにくい(他の人に迷惑をかける)
- ▲ 活躍が重要視される主任クラスが研修に参加できない
⇒忙しすぎて研修に参加する時間が取れない
- ▲ 研修で学んだことを、そのまま自園で実践できない ⇒ 応用力、汎用力が必要
- ▲ 勤務先が研修参加に消極的
- ▲ 若い保育者が研修で学んだことを共有しにくい(経験年数や立場を越えて自由に意見を述べる風土づくりに課題)

等

3.研修の有無とその内容

	対象者	研修の有無・参加の有無とその内容	その他研修について
①	私立保育所	私保連の研修プログラムを受講 (マネージメント、乳児保育、食育など専門研修)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 処遇改善加算実施で副主任昇格のための研修に参加できるようサポート ▲ 外部研修の参加は人員不足で難しい ▲ いちばん勉強してほしい現場の保育者は、なかなか研修が受けられない <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 忙しい主任保育者はアウトプットばかりでインプットがない ⇒ 情報を外に取りに行く機会がない ⇒ 若手は研修で学んでいるが、主任クラスは研修参加が難しく最新の情報を得にくい
②	私立幼稚園	私立園で企業が主催する「保育を学ぶ会」に参加	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公立よりも私立の方が研修内容が充実・豊富である <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 公立はテーマが多岐にわたるが広く全般的なことで深みがもう少しあればいい ○ 外部講師を招くなど園内研修は有益(保育者の成長につながる) ▲ コロナ禍で研修数が減少し、多忙も重なり参加しにくい ○ 公立の研修内容は最先端(文科省からの指導や幼稚園教育要領等の改訂などへの対応が迅速)
③	私立幼稚園	研修には参加できている	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実際の保護者が語る発達支援の研修は役に立った・納得できた ▲ 理論と実践の間にギャップがあり、学んだことの実践は難しい ▲ 勤務している園自体が研修参加に消極的・他園との交流も少ない ▲ 若手研修で学んだことを園内に持ち帰って共有するのは難しい
④	私立幼稚園	研修は減少しているが、オンライン開催で参加できている	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園児に関する研修はオンライン(ZOOM)などでも開催されている <ul style="list-style-type: none"> ⇨ 職員に関わる研修自体は少なく、若い保育者は負担を感じている様子 ○ 経営母体が主催する新人研修(社会人としてのマナー・作法を学ぶ)を導入 ▲ コロナ禍で研修数が減少、園内でプロジェクト実施(遊び方、危険箇所把握等)
⑤	私立幼稚園	研修には参加できている (ZOOMによる外部研修:特別支援の園児の研修)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市内幼稚園の研修発表会に参加し、他園の事例を知る機会がある ○ 気になる園児のことは学ばないとわからない <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 研修に参加することで、いろいろな対処方法を知ることができ、選択肢が増える

	対象者	研修の有無・参加の有無とその内容	その他研修について
⑥	公立保育所	研修開催・参加できている	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新人向けの研修を開催(1年目に互いの保育を見て意見交換する/2年目は先輩の保育現場を見学し、振り返り研修等) ○ 1年に1回自分のクラスを他クラスに公開 ○ ICTやインクルーシブ教育の研修 ○ 教育委員会や企業が開催する研修もある(夏休み) ○ 外部研修は自分で調整可能であり、参加は気分転換になる
⑦	公立保育所	研修開催・参加できている (1年で10回の研修に参加:園内2、外部8オンラインを含む)	<ul style="list-style-type: none"> ○ フリーの保育者がいるので、研修には参加しやすいが、担任が行く場合はお願いしにくいこともある ○ 興味のあるものを自分で選んで参加できる ○ 研修内容は多岐にわたる(発達、あそび、おもちゃ等) ○ 自治体によって他園との連携の活発さが異なる ○ 「明日の保育ですぐに使える遊びの展開」についての研修を受けたい ○ 他園との同期との交流を深める機会が欲しい
⑧	こども園	研修開催・参加できている	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期的に研究会が開催されている(テーマはさまざま) →園児の遊ぶ環境など外部講師を招いて開催 ○ 勤続年数にあわせてテーマを選んで参加できる ○ 研修参加は挙手制で、若手の方が参加率が高い ○ 外部講師を招いての公開授業は、保育者自身が成長できる機会になる
⑨	私立保育所	園長からの勧めもあり、 研修には参加しやすい・参加している (発達、造形・製作、保護者支援など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育園連盟から案内があり、自分が悩んだことについての研修があれば参加する ○ キャリアアップに関わる研修は積極的に受けたい ○ 今後は発達障害や乳児の発達、身体的な障がいについて勉強したい ○ 園児の昼寝中にオンラインで受けれるような研修を増やしてほしい

4.事例参考の有無と具体的事例

- 保育の事例に関しては、活用する機会さえあれば参考にしたいと考えている人がほとんどである。
- 事例の有効度の捉え方はさまざまであるが、自分以外の人との共有は必要と認識される。ただし、共有の方法や共有の仕方によっては事例の価値を伝えきれていないとの指摘もあり、いかに、事例を確実に共有するかが課題のひとつ。
- また、事例と実際に自分が行っている保育業務とのギャップがあることを多くの人が指摘し、実際の保育に応用できる事例提供も今後の課題。



製作物や歌、絵本などの事例をネットで探す

自治体が積極的に保育事例を発信

年少の手遊び、遊び方などの事例をネット・本で探す

研修を兼ねて、他園・他クラスの保育を見学(事例見学)

園児の対応に関する事例をネットで探す

園児・保護者対応はベテラン保育者の体験・話を聞く・相談する

⇒ 事例を知る・探す機会が多い。かつ、目的・用途に応じて事例を知る方法を選択している



いろいろな解決策を知ることができ、選択肢が増える

事例を知った上司が自園にあてはめて、伝達できない

保育者同士で話し合える・共感できる

好事例を受け入れる素地(意識・体制)がない

⇒ 事例を知る・共有する・選択肢が増加するといった意識はあるものの、一方で、伝達・共有の仕方のネックも存在



自分の裁量次第で、事例を取り入れることができる

事例をそのまま当てはめて実践できるわけではない

テーマによっては自分の悩み・課題解決の参考になる

忙しすぎて、事例を実践できない・身につかない

自分とは違うやり方を知る = 新鮮な気持ちになる

若年層の保育者は事例が応用できない(応用力がない)

⇒ 事例を自分なりに咀嚼し、応用できる人にとっては有効活用できる。その反面、日々の業務に忙殺されたり、経験が浅い人にとっては事例を活用できるほどの応用力・汎用性を発揮できない = 事例と実践のギャップが顕在化
同じ活動をしていても、子供の興味や関心、体験や学びは一人一人異なり、その子に応じた援助が求められることから、事例から学んだことを目の前の子供に生かしていくことが難しい

4.事例参考の有無と具体的事例

	対象者	現状における事例参考の有無	具体的事例・事例についての印象・感想・課題
①	私立保育所	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事例共有は少ない ✓ 参考になる事例を所長が伝えても自園にあてはめられない ⇒本質的なポイントを押さえて、若年層にも分かりやすく伝える必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研修に参加することで、他園の保育者とのつながりができ、解決策などを共有できる＝実践と知識がつながる • 園が所在する市が「乳児保育」の事例を積極的に発信 ⇒紙や冊子で配布したり、園に見学に行ったりしていたが最近はメールで来る ▲ 食育の事例は園児に実践したことがあるが、準備が必要なものはすぐに対応できない • 事例を自園に当てはめて、下に展開することが必要 ⇒「この事例のここを取り入れてやってみよう」という人がいるかどうか(にかかっている)。展開しようという保育者のリーダーの資質によるところが大きいと思う
②	私立幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事例共有の機会があり、学びにはなるが、すべてが役立つわけではない 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他の保育者と園児のかかわり方を実際に見ることで自分の課題がわかる ○ パンフレットやチラシではなく、自分が見たい時に見られるネットがいい ▲ 事例をそのまま当てはめることができない ▲ 事例を聞いても、自分の中で腑に落ちないことは実践できない • 時代によって保育方法も変わるので、時代に合わせて自分も変わらなければいけない
③	私立幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ネットで事例を調べて、共感することがある ✓ 事例から学ぶという雰囲気乏しい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園児への対応をネットで検索し、事例に納得・共感することがある ○ 担任として教室では自分の裁量で事例を取り入れることは可能である ○ 園児の思いや状況に応じた遊びのバリエーションが紹介されているサイトがあればうれしい ○ 伝統的な自園のやり方があり、他園の良い例を見ても受け入れない考えが根強い
④	私立幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 他園に見学に行く機会や他のクラスの保育を見る機会が事例のひとつ 	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 業務が忙しすぎて、事例が身につかない ▲ どんな事例でも実際に自分でやってみないと正解とは限らないし、身につかない ▲ 若年層の保育者は事例の応用力がない ⇒場合別、年齢別など細分化して事例を整理する必要がある
⑤	私立幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 他園の事例は参考になる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 良い事例は取り入れていきたい ○ 年少の子どもの遊び方や食についての事例がネットで調べられたらいいと思う、ネットだとすぐに調べることができる ○ 1年目は何をしたらいいのかわからないので、ネットで調べることが多い • 遊び方がまとまっているサイトがあればいい

	対象者	事例参考の有無	具体的事例・事例についての印象・感想
⑥	公立保育所	(事例についての発言はなし)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新人には、まず、自分の保育を見てもらうというのがある。入って数ヶ月の段階で、自分が持っているクラスを見てもらう。自分も他の新人さんのクラスを見に行くことで、意見を言い合ったり悩みを共有したりする機会がある ○ 若年層も自分も今はネットで歌や本を探す
⑦	公立保育所	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 保育本やネットで事例を検索 (製作の事例は常にネット検索) ✓ 園児対応、保護者対応の事例は見ない 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ネットの方が最新の情報を得ることができる ⇒情報サイトや保育者のInstagramを参考にしている ○ 保育内容は市が作成した資料を検索 ○ 園児の変化事例は参考になる ○ SDGsを取り入れる時は本を買って事例を調べた ○ 園児対応や保護者対応はベテランの保育者に聞くことが多い
⑧	公立こども園	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 遊びや製作はネット検索で情報収集 ✓ 他園の行事のリハーサルを見学 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他園の行事を見学することで遊びを見ることができ、新鮮な体験になる ○ 完成形よりも、その過程を見ることが参考になる ○ 保育所で使うものや手遊び、音楽、製作などについてはネットで検索 ○ YouTubeで知らない園の歌や劇を見て演目の参考にする ⇒歌や踊りは文字や写真より動画がわかりやすい
⑨	私立保育所	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 研修を受けて知った事例は報告書や職員会議で共有 ✓ 園長会議で知った事例は勉強会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな事例に接することで、違う考え方を知り、勉強になる

5.事例の認知経路と今後の事例認知経路に対する要望

- 能動的に事例を探す場合は、「インターネット検索」が主流であり、製作物や行事のための参考情報としての活用度が高い。時間的・身体的余裕がない場合でも事例を見ることができるツールとして有効。
- YouTube、Instagram、まとめサイトなども今後の活用ツールとなり得る。
- 一方、保育現場での対応(園児、保護者など)は、他園・他クラス見学やベテラン・同僚への相談といった自分の目で確かめるリアル事例を重視する傾向にある。



業務で疲れていても
パッと探せる！

● 自分が保育のために作る製作物は、**ネットで検索**

時間がないときでも
手間なく探せる！







● 歌う歌や演劇での演目などは、
動きのわかるYouTube(動画)で

● **保育者のInstagram、
情報サイト「HoiClue」などで
最新情報を入手！**

文字や写真よりも
わかりやすい！



● 園児や保護者に対する対応は、
**他園・他クラス見学などで知る
ベテラン・同僚に相談する**



その他、

- 自治体から**チラシ・パンフレット**や冊子、最近では**メール**で事例紹介あり
- **研修参加**は事例を知る機会になる
- **オンライン(ZOOM)**で研修＝事例を知る機会
※園児の昼寝中などの時間を有効に使える
- **遊び方などがまとめてわかる情報サイト**があればいい！！

■ インタビュー個票

① 私立保育所（保育所長）

人数がギリギリのため、外部研修への参加は限られるが、私保連の研修プログラムに参加
主任クラスが自園にカスタマイズした形で他園の事例を共有できれば、活用できる

対象者プロフィール

- 所 属:私立小規模保育所(2才児まで)
- 担 当:保育所長
- 園児数:約15人(定員は19人)
- 勤務歴:一

勤務先の現状

- ・ 認可小規模保育所。保育士は所長を含め8人(うち、主任1人・副主任1人)
- ・ 副主任＝現場のリーダー的な人
※副主任は置かない園が多いが、指導で副主任に手当を出すということで設置
- ・ 保育士は20代から50代まで
- ・ 小規模園は定員割れをしている

普段の保育における課題・困りごと

- ◆持ち帰り仕事が多い
 - ・ 運動会など行事の時の飾り付けなどは、業務中にはなかなかできない
→残業するか、持ち帰って家でするしかない
- ◆サービス残業が常態化している
 - ・ 土曜や日曜、夜に家ですることが常態化している

課題・困りごとの解決策

- ◆持ち帰り仕事を減らす・サービス残業をしない
 - ・ 「持ち帰り仕事とサービス残業はしない保育所にする」ことを前面に出している
 - ・ 持ち帰り仕事を極力減らすことで、「本当なら勉強に充てられる時間を持ち帰り仕事に取られる」というストレスがないようにしている

研修の有無・内容

- ◆外部研修への参加は、人員不足で難しい
 - ・ 保育士の数が限られているため、外部研修で穴を開けることはできない
- ◆処遇改善加算のための研修をサポート
 - ・ 処遇改善加算で副主任に手当がつくようになったので、保育士が研修を受けて副主任になれるようサポートしている
 - ・ 私保連の研修プログラムも受講している(マネジメント、乳児保育、食育など専門テーマあり)

事例を参考にすることがあるか

- ◆事例共有は少ない
 - ・ 市が積極的に「乳児保育」といったテーマごとに過去の取り組みを発信。以前は園長会で、紙で配布したり、冊子を作ったりしていた。その事例の園に見学に行くということもしていたが、最近は少ない
- ◆自園での活用ができない
 - ・ 参考になる事例を所長が伝えても「自園に当てはめてやってみる」ことはできていない
- ◆活用ができない理由
 - ・ 園長会で得た情報を主任に伝える段階で、本質的なポイントに落とせていないため、主任から下へも上手く伝わらないことが多い

参考になる事例

- ◆食育についての事例
 - ・ 2才児までの園で、言うことが伝わらない子もいるが、伝えるようにしている
 - ・ 昼食の時以外でも、話をするようにしている。厨房がすぐ横にあるので、食育の事例を実践して園児に下ごしらえをさせたこともある
※それなりの準備が必要なものは、すぐには取り入れられない

その他

- ◆具体的な事例ではなく、基本的な考え方の共有が良い
 - ・ 「こんな事例がある」と言われても、「自園ではできない」というパターンもよくある
 - ・ 研修を受けた人が持ち帰って提案するが、他の人に上手く伝わらず実現しないことが多い
 - ・ 研修で基本的な考え方を理解し、事例を自園に当てはめた上で展開できれば実践に繋がるし、保育の質も上がっていく
 - ・ 主任・リーダークラスの1人が事例を自園に当てはめてから職場に展開できれば、広げていくことはできると思う

より専門的な学びを得るために私立幼稚園に転職したが、コロナ禍により学びの機会は減少 他の教諭の保育を見ることが学びにつながる

対象者プロフィール

- 所属:私立幼稚園
- 担当:年少クラス担任
- 園児数:約250人
- 勤務歴:現在の園は3年目。幼稚園教諭歴は15年で、現在7園目。
現在の園で、最初の2年は担任を持っていなかった

勤務先の現状

- 私立幼稚園(3年保育。幼稚園～大学まであり)
- 幼稚園教諭は15人(担任10人、フリー3人、その他2人)、養護教諭、用務員、預かり担当教諭
- 年少は1クラス20人程度×4クラス=約80人

普段の保育における課題・困りごと

- ◆慢性的に、忙しい
 - 担任を持つと、特に忙しい
 - 常に持ち帰り仕事があり、通勤電車でも仕事をしている
 - 特に毎週の「クラスだより」作成が負担
- ◆業務の負担(事務仕事や製作)が減ると、
学びの時間が増える
 - 今の生活では学びの時間が取れない

課題・困りごとの解決策

- ◆困りごとは、主に園児への対応。
園長、主任、同学年の担任の教諭に相談する
 - 相談はするが、生身の人間が相手のためそのまま適用して解決するとは限らない
→園児の様子を見ながらアプローチ方法を変化させ、試行錯誤している
- ◆教育のための本やパンフレットが園に設置されている
 - 読んではいるが、あまり余裕がない

研修の有無・内容

- ◆私立園の方が、自分が学びたい分野の研修がある
 - 公立園・私立園を経験した。当時の公立園の研修は「人間関係」「言葉」「発育・発達」「保護者対応」「食育」など多岐に渡るが、広く全般的な内容ばかりで深みがない。自分が学びたいことがないと感じ、私立園へ。私立園で、企業が主催している「保育を学ぶ会」に参加していた
 - 現在の園では行きたい研修があるものの、忙しくてタイミングが合わず、参加できていない
- ◆現在はコロナ下で研修が減少しており、また多忙のため、参加できていない
 - 担任が研修に行く場合、フリーの教諭に代わりをお願いすることになるため参加しづらい
- ◆公立園の研修内容は、最先端
 - 文科省からの指導や幼稚園教育要領等の改訂などへの対応が迅速
- ◆園内研究会(外部講師を招いての公開授業。過去に勤めた園で経験)は「成長できる」
 - 実際に自分の保育を見て、声掛けの仕方などをその場で指摘されるため、わかりやすい

事例を参考にすることがあるか

- ◆事例共有の機会はあり、学びにはなるが、
すべてが役立つとは限らない
 - 教諭も園児も十人十色であり、その上でクラスの雰囲気が出てくる。事例をそのまま当てはめられないことも多い
 - 事例を聞いても、自分の中で腑に落ちていない中で実践してもうまくいかない

参考になる事例

- ◆時代によって変わる保育
 - 古くから勤めているため、時代に合わせて自分のやり方を変えなければ置いていかれると感じる

その他

- ◆他の教諭の保育を実際に見ることが、いちばんの学びになる
 - 他の教諭の園児との関わり方を見ることで、過去に自分が学んだことの再確認ができ、自分の課題がわかる
 - 教諭と園児の様子を客観的に見ることで、園児が納得できる声掛け、アプローチの仕方がわかるようになる

持ち帰り仕事も多く、目の前の仕事をこなすことで精いっぱい。園からのサポートも少ない
相談や学びの機会が少ない。事例についてネットで調べることもある

対象者プロフィール

- 所属:私立幼稚園
- 担当:年少クラス担任
- 園児数:約250人
- 勤務歴:幼稚園教諭歴は4年で、現在1園目(実習も同園)
最初の2年は年中の担任で、年少の担任は初めて

勤務先の現状

- 私立幼稚園(幼稚園～大学まであり)
- 幼稚園教諭は15人(担任10人、フリー3人、その他2人)、養護教諭、用務員、預かり担当教諭
- 若い教諭の離職率が高く、人材がベテラン層に偏っている

普段の保育における課題・困りごと

- ◆持ち帰り仕事が多い
 - 休みは取りやすいが、残業・持ち帰り仕事は多い
- ◆行事が多く、他の教諭の保育を見る余裕がない
 - 新任1年目から他の教室の様子を見る機会がなく、学びの機会が少ない

課題・困りごとの解決策

- ◆学年の教諭に相談するが、うまくいかない
 - どの教諭も経験があり、さまざまな解決策を教えてくれるが、状況説明がうまくできず意図が伝わらない
→欲しい回答が得られない(実際に現場を見た上でアドバイスをもらいたい)
- ◆そもそも、相談することが苦手
 - 最初の2年は相談ができず、何でも自分で判断しなければならなかった
- ◆ネットや本も活用
 - 「発達 癩癩 対応」といったキーワードで調べている

研修の有無・内容

- ◆研修には参加できているが、実践は難しい
 - 役には立つものの、「クラスによっても違う」と思うこともあり、理論と実際の間ギャップがある
 - 若手を対象にした研修で学んだことがあっても、若手の立場では園に持ち帰っても提案しづらい
- ◆発達支援に関する研修は役に立った
 - 実際の保護者からの話があり、教諭とは違う視点の話に「なるほどな」と思えた
- ◆園の方針は、研修より「まず自園で解決」
 - 知りたいことがあっても研修を勧められることはなく、まず自園で他の教諭に聞いてみるよう促される(研修に立候補することも可能だが、なかなかできない)
 - 他の園との交流は少なく、行事を見せ合う程度。他園からの学ぶ機会は少ない

事例を参考にすることがあるか

- ◆ネットで事例を見て、共感することがある
 - 園児への対応の仕方を検索し、事例があれば「そうだよね」と思っている
- ◆自園の伝統的なやり方に固執し、事例を受け入れない体質がある
 - 他園で良い例を見ても「うちの園は違う」との考えが根強い
- ◆担任の仕事は1人の世界。教室内では自分の裁量で事例を取り入れることは可能
 - 似た事例があれば、やってみたい

参考になる事例

- ◆遊びの種類についての事例
 - よくネットで検索している。タイプ別に遊びが紹介されているサイトがあれば嬉しい

その他

- ◆園内の人間関係が円滑ではなく、相談や話し合いが阻害されている
 - ベテランの教諭から厳しい指導を受けることがあり、相談先がない

若い教諭が相談しやすい雰囲気を作ること心掛けている。経営母体(民間企業)が主催する研修に参加 コロナ禍で研修や学びの機会は減少し、事例を活用する機会は限られている

対象者プロフィール

- 所属:私立幼稚園
- 担当:園長
- 園児数:262人(10クラス)
- 勤務歴:幼稚園教諭歴は30年で、ずっと現在の園に勤務。園長歴は3年

勤務先の現状

- ・ 私立幼稚園(3年保育。幼稚園～大学まであり)
- ・ 幼稚園教諭は担任10人・フリー教諭3人・ひよこ組(0～2才)の教諭2人、園長、保育主任、養護教諭、事務、午後の預かりの教諭5人
- ・ 教諭の年齢層は、50代4人、40代2人、30代3人※うち2人は時短勤務、20代4人
- ・ 人員が足りておらず、回っていない。あと2名は欲しい
- ・ 責任が40～50代の教諭に偏っているため、30代以下の世代にもっと保育の中心を担ってほしいが、30代は子育てが大変で時短勤務の人もおり、なかなか実現できない

普段の保育における課題・困りごと

- ◆若い教諭には「わからない時はすぐに相談するように」と指導している
 - ・ わからないことがあれば、保育主任・学年主任に相談できる
 - ・ 自分で抱えるタイプの教諭にも、何かあれば相談できるように促すようにしている
- ◆多様な保護者対応が求められる
 - ・ 「うちの園を経験したらどこでもやっていける」というくらい保護者対応が大変。教諭同士でアドバイスをし合っている
- ◆多忙で、働き方改革が求められている
 - ・ 人手が足りないが、忙しさが敬遠されて応募がないため、働き方改革をしたい

課題・困りごとの解決策

- ◆若い教諭への指導は、園長と主任クラスが役割分担
 - ・ はっきり指導する教諭もいるが、園長として、相手によって言い方を変えるなど気を遣っている
- ◆正解がないため「とりあえず真似をしてやってみて」と方法を例示
 - ・ 真似をするうちに、だんだん自分自身のやり方になる
- ◆若い教諭は「自分が何に困っているか」を理解できていない
 - ・ 上層部が課題を認識しづらいため、保育をよく見てフォローし合うようにしている

研修の有無・内容

- ◆コロナで外部研修がなくなり、園内で園庭に砂場を作るといったプロジェクトを実施
 - ・ 園に危険はないか、どんな遊びがいいかという研修をしている
- ◆園児に関する研修が多く、職員研修は少ない
 - ・ 最近、ZOOMで「気になる園児について」の研修を実施。職員研修が少ないことで、若い教諭がしんどい思いをしているかもしれない
- ◆経営母体の企業が主催する、新人研修を導入
 - ・ コロナで中止されていたが、去年再開。社会人としてのマナーや作法を学ぶ機会を設けている

事例を参考にすることがあるか

- ◆他園に見学に行く機会や、園内で他の教諭の保育を見る機会を作りにしている
 - ・ 自分の保育を客観的に見ることができ、勉強になる
- ◆業務が忙し過ぎて、事例が身につかない
 - ・ 他の園に視察に行ったとしても「すごいな」で終わってしまい、身につくことはなさそう

参考になる事例

- ◆事例がすべて正解とは限らない
 - ・ どんな事例も、やってみなければわからない
 - ・ 事例をそのまま実践するだけでは、自分の身につかない
- ◆若い教諭は、事例を応用する力がない
 - ・ 場合別・年齢別など細分化させ、そのまま使えるマニュアルにまで落とし込む必要がある

担任になると多忙で、目の前の仕事で精いっぱいとなる 他園の事例を参考にすることで学びを深めることはできる

対象者プロフィール

- 所属:私立幼稚園
- 担当:フリー教諭
- 園児数:262人(10クラス)
- 勤務歴:幼稚園教諭歴は3年で、現在の園で3年勤めている
1年目～2年目は年少の担任をしていた

勤務先の現状

- ・ 私立幼稚園で、ベテランの教諭が多い
- ・ フリー教諭になると、運動会や交通など係が多い。担任の時とは違った大変さがある
- ・ 担任の時は、担任1人で20人を見なければならず、園児の気持ちを汲み取るのが大変で余裕がなかった
- ・ 勤務は7:40～。昼食も園児と食べるため昼休みがない
- ・ 人間関係は良く、悩んだことはない

普段の保育における課題・困りごと

- ◆担任は多忙
 - ・ 月2回のクラスだよりの作成、懇談準備、週案、学期末の記録、劇準備などを1人でこなさなければならない
- ◆新人でも、保護者対応は担任の責任で行わねばならない
 - ・ 気になる園児の場合は保護者に少しずつ情報を伝えるなど、保護者と信頼関係を築くよう努めている
 - ・ 常に言葉遣いに気を付けている
 - ・ ベテランの教諭に相談することもある

課題・困りごとの解決策

- ◆困った時は主任の教諭に相談。1～2年目は、保育が終わってから主任・園長と振り返りを行っていた
 - ・ 園児の気持ちを汲み取れない時の対処、保護者への伝え方について相談していた
- ◆本を購入
 - ・ 気持ちの整理の付け方を調べた
- ◆担任からフリーになって他の教諭の保育を見る機会が増え、学ぶことが多い
 - ・ ベテランの教諭の間のとり方、声掛けの仕方を見ることで自分の課題が見えた
→次に担任になった時に活かしたい

研修の有無・内容

- ◆宝私幼の研修発表会に参加し、他園の事例を知る機会がある
 - ・ 違う園の話聞いて「これは真似してみよう」と思うことがある。全部ではなくても、取り入れたらと思っている
- ◆ZOOMで外部講師から特別支援の園児についての研修を受けた
 - ・ 気になる園児のことは学ばないとわからず、対応が難しいことが多いため、いろいろな方法を知って選択肢を増やすことができる

事例を参考にすることがあるか

- ◆他園の事例は参考になる
 - ・ 良い事例は取り入れていきたいと思っている

参考になる事例

- ◆年齢ごとの遊び方、ゲームの情報がほしい
 - ・ 1年目は何をしたらいいのかわからず、ネットで調べることも多かった。遊び方がまとまっているサイトがあれば良い

園内でクラスを公開し合い保育の質を向上させる取り組みをし、学びにつながっている 研修は多いがフォローもあるので負担感は少ない

対象者プロフィール

- 所属:公立保育所
- 担当:2才児クラス担任
- 園児数:約60人
- 勤務歴:保育者歴は40年で、現在の園は2年目
これまで、5箇所の公立保育所を5年ごとに異動していた

勤務先の現状

- 公立保育所で、2才児クラスは10人で、保育士2人(国の基準は園児6人に対して保育士1人だが、市の基準で園児5人に保育士1人が配置されている)
- ベテラン層～若手まで年齢層は幅広い
- 皆で時差勤務を順番に回している

普段の保育における課題・困りごと

- ◆持ち帰り仕事はしていない(若い保育士はしている・自分も若い頃はしていた)
 - 若い保育士は「あれもこれもしなければ」と思いがち。年数が経つと要領を得て、持ち帰り前提の仕事はしなくなった
- ◆若い保育士からの相談は少なめ
 - 気づいたことがあれば伝える。負担やプレッシャーにならないよう言い方に気をつけている
 - 主体性を大切に、達成感を持つよう、程よい加減で伝えるようにしている
- ◆保護者対応は難しい
 - 日頃からコミュニケーションを取って信頼関係を築きたいが、交代勤務のため保護者に会えないことも多く、難しい。相手のことを理解し、言葉を選んで関わるようにしている

課題・困りごとの解決策

- ◆園児との関わり方の悩みは、園内で段階を追って共有
 - まず担任同士で共有
→隣のクラスの同僚に相談
→所長・副所長・クラス担任・フリーの保育士の会議(年7回)で話し合い
- ◆いろいろな人と話すことで自分の見方が変わり、解決に至る
 - まず自分の気持ちが楽になり、それが園児にも伝わる。半年くらいの長いスパンで振り返ると、変化を感じられる

研修の有無・内容

- ◆新人向けには、1年目に互いの保育を見合っって意見交換できる研修を実施
 - 入って数ヶ月の段階で自分のクラスを見てもらう・自分も他の新人さんのクラスを見に行くことで、意見を言い合い、悩みが共有できる(最近はコロナで実施できていない)
- ◆2年目は先輩の保育を見学し、振り返りをする研修を実施
 - 自分に当てはめてどんなことができるかを考える機会になる
- ◆1年に1回、自分のクラスを所内の他のクラスに公開している
 - 外部の人ではなく、園児のこともある程度わかっている所内で見てもらえる良い機会
 - 研修の時に自分の保育を書き出すことで振り返りができたり、感想を聞くことで違った視点に気づけたり、自分が見えなかった視点で子どもの様子を知ることができる
 - 他のクラスの保育を見ることで、進め方のテンポ感、間の取り方、子どもとの掛け合いがよく見えて「これくらいのテンポがいいな」「こうしたら子どもの気が逸れるな」という気づきがある
- ◆他の園との交流、私立保育所との交流もあり
 - 一緒にICTやインクルーシブ教育の研修を行っている
- ◆県の教育委員会、民間の教育関連の会社が主催する研修も夏休みを中心に開催
- ◆研修は多いが、負担感はない
 - 実施時期など自分で調整ができる。外部研修は気分転換にも良い

人手があることで相談体制、研修への参加などの心理的ハードルは低くなり、研修への参加も増える 明日の保育で使える研修をもっと受けたいと希望。事例はネット検索をすることもある

対象者プロフィール

- 所属:公立保育所
- 担当:4才児クラス担任
- 園児数:約60人
- 勤務歴:保育士歴は7年で、現在の市では2年目。現在の園は1年目
新卒1年目～4年目および5年目は近隣の市で勤務

勤務先の現状

- 公立保育所で、4才児クラスは20人で、保育士1人+要配慮の園児2人の加配が1人
- 正規の保育士10人とフリーの保育士3人+会計年度の保育士
- 若手は3～4人で、その他はベテラン。中間の年代がない
- 今年は人手が潤っており、フリーの保育士が3人いて助けてもらえることも多く、ありがたい
- フリーの保育士がいるため、休みも取りやすく余裕がある
- 人間関係は良好
- 人員が潤沢なため、持ち帰り仕事はなし

普段の保育における課題・困りごと

- ◆年齢が若いため、保護者対応が難しく感じる
- 子どもの発達の話などは、若い立場で言いづらい。言い方に気をつけて上から目線にならないようにしつつ、伝えるべきことは伝えるようにしている
- たまに保護者の言葉にグサッとくることもあるが、仕方がないと開き直っている

課題・困りごとの解決策

- ◆保育のこと、保護者対応などはすぐにベテランの保育士先に聞ける環境
- 的確なアドバイスや経験談がもらえる
- 解決することもあれば難しいこともあるが、親身に力になるうとしてもらえるためありがたい

研修の有無・内容

- ◆今年1年で10回の研修に参加(園内2、外部8/オンライン含む)。興味のあるものを選んで参加
 - 園から参加者を指定されることはなく、希望者の中で相談、調整して参加する
 - フリーの保育士がいるため、行きやすい
- ◆研修内容は、発達、大学教授の話、幼稚園との交流、遊び、おもちゃ、要配慮の子どもへの援助など
 - 担任が研修に行く場合、フリーの保育士に代わりをお願いすることになるため参加しづらい
- ◆現在の市は近隣の市と比べて他園との連携がさかん
 - 研修などで他園に行く機会が多く、他園の情報を取り入れることができている
- ◆「明日の保育ですぐに使える遊びの展開」についての研修をもっと受けたい
 - すぐに実践できて園児の反応が見られて楽しいし、引き出しをたくさん持っておきたい
- ◆本当はもっと研修に参加したいが、コロナで回数や人数に制限があることがネックになっている
 - もっといろいろ学びたいし、他の園の同期との交流を深める機会もほしい

事例を参考にすることがあるか

- ◆製作の事例は常にネット検索
 - 保育本も見るが、ネットの方が最新の情報が得られる。情報サイトや保育士のInstagramを参考にしている
- ◆保育の内容は、市の資料を検索
 - 他の園で頑張ったことが資料になっているため、他ではどんな保育をしているのかを調べた
- ◆園児対応、保護者対応の事例は見ない
 - 対応については、ベテランの保育士に聞くことが多い

参考になる事例

- ◆保育の展開
 - 「4月にはこんな姿だった園児が、〇〇を取り入れたらこんな変化があった」といった事例は参考になる
 - ただ遊ぶのではなく、学びながら遊ぶ方法を知りたい(例えば雪遊びなら、雪の形を教えながら遊ぶなど)
 - 園でSDGsに取り組んだ時は、本を買って年齢ごとにどんなことができるのか事例を見て、取り入れた

業務が煩雑になること、幅広い年齢の子どもを見る必要があることなど子ども園ならではの課題がある
研究会や、研修参加の頻度は高く、事例共有も充実している

対象者プロフィール

- 所属:こども園
- 担当:①2才児クラス担任 ②4才児クラス担任
- 園児数:170人(定員は180人)
- 勤務歴:①保育士資格と幼稚園教諭免許の両方あり。2年目で、現在の園が初めて
②保育士歴39年。公立保育所を複数経て、こども園は2年目

勤務先の現状

- こども園
- 保育士は50人+パート、体育教師など
- 0~2才児は保育所部で1クラスずつ、3~5才児は2クラスずつ
- ①2才児クラスは15人、②4才児クラスは21人
- 保育所部、幼稚園部混合のクラス編成となっており、それぞれ決められた時間に降園している
- 幼稚園部には預かり保育があり、16時半まで預かっている
- 保育士の人数が多いため事務仕事なども滞ることがなく、残業や持ち帰り仕事はない
- 労働環境や福利厚生が整っており、離職率は低い。私立園と比べて恵まれていると感じている

普段の保育における課題・困りごと

- ◆保育所部と幼稚園部が混在しているため、業務が煩雑になり混乱している
 - 保育時間は違うが、同じ保育内容にしなければならない
 - 開所時間が長く交代勤務のため、保育所部の保護者とは会えないことが多い
- ◆時差出勤で他のクラスにも入ることになり、名前を覚えていない園児を見ることになる
 - どんな園児なのかを知らずに保育するのは少し怖い
 - 時差出勤のパターン数が非常に多く、継続して園児を見るができない

課題・困りごとの解決策

- ◆わからないことは、ペアやフリーの先輩保育士の対応を見て真似をし、模索する
 - ペアの保育士の関わり方を見ることで視野が広がり、言葉がけの引き出しが増える
 - そのうち、自分なりの工夫ができるようになる
- ◆毎週の報告会、研究会、毎月の職員会議で話題共有
 - 若い保育士は個人としての発言が難しいが、クラス単位で発信や主幹の保育士に相談ができる

研修の有無・内容

- ◆定期開催される研究会のテーマはさまざま。園児が自主的に遊べる環境づくりについて話し合ったり、溝掃除や草抜きをしたり、外部の講師を招いたりしている
 - 園児が取りやすいように遊具を配置するなど、園児の遊ぶ環境を整えるために話し合っている
- ◆外部研修は年に5回程度参加
 - 勤続年数ごとの研修や、運動遊びの研修に参加した
 - SDGsについての研修もあり
- ◆研修参加は拳手制。興味のある研修に参加できる(主に若い世代)
 - 経験年数の長い人より、若い世代が研修に参加している

事例を参考にすることがあるか

- ◆遊びや製作は、ネット検索で情報収集
 - 保育で何を行うか知りたくて、手遊び・音楽・製作について調べている
- ◆年に3回、他園と行事のリハーサルなどを見学し合っている
 - 知らなかった遊びを見ることができ、新鮮な体験ができる
 - 完成されたものより、過程から見る方が参考になる

参考になる事例

- ◆YouTubeで知らない園の歌や劇を見て演目の参考にする
 - 歌や踊りは、文字や写真より動画がわかりやすい

その他

- ◆事例からは柱となる内容がわかれば良い
 - 細かいことは目の前の子どもたちに合わせたり、園で話し合って決めたい

⑨ 私立保育所（保育士歴2年）

経験でカバーする業務への対応に負担を感じている。研修への参加は自由にでき、新たな学びを得ている
研修はもっと身近な受講方法があるとよい

対象者プロフィール

- 所 属:保育所
- 担 当:3才児クラス担任
- 園児数:60人(定員60人)
- 勤務歴:保育士歴は2年で、今の園で2年勤めている

勤務先の現状

- 3才児クラスは12人で、保育士2人
- 保育士は担任8人(若手4人、ベテラン4人)+フリーのパートの保育士3人+主任+園長+学生アルバイト
- 保育時間は7時~19時で、早番と遅番に分かれて勤務
- 仕事は大変だが、ストレスはない(頑張ったことが、子どもの成長や子ども・保護者の喜ぶ姿になるため、頑張れる)
- 人間関係は良好で、相談もしやすい

普段の保育における課題・困りごと

- ◆経験が浅いため、毎月の計画立てが大変
 - 子どもの様子を見ながら計画表を作るため、何をどう書くか、また書いたことをどう保育に当てはめるかに悩む
- ◆日々の保育の中で、声掛けの仕方などまだ「引き出し」が少ない
 - 園児への声掛けの仕方、園児の導き方がわからず悩むことが多い
 - 「園児の気持ちをどう持っていくか」に苦心している

課題・困りごとの解決策

- ◆ベテランの保育士、主任、園長に相談(相談しやすい環境)
 - 保育の中で困ったことがあったり、保護者から気になることを言われた時などはすぐに報告し、対応の仕方を相談している
- ◆厚生労働省の「保育所保育指針」や学生時代の教材を読む
 - 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をよく見ている

研修の有無・内容

- ◆今年1年で2~3回の研修に参加。園長の勧めもあり、参加しやすい
 - 自分から希望して参加することもある、園長から指定されて参加することもある
 - 市の保育園連盟から案内がある。自分が悩んでいることについての研修があれば、参加する
- ◆参加した研修は「発達」「造形・製作」「保護者支援」など
- ◆キャリアアップに関わる研修は積極的に受けたい
 - キャリアアップすると給与にも反映されるので、取っておきたい
- ◆行事の時など、お互いの保育を見合う機会ではアドバイスが得られる
 - 他のクラスの保育士などから「こういう時はこうしたらいんじゃない?」と第三者的な意見やアドバイスをもらえる
- ◆今後は、発達障害、乳児の発達、身体的な障がいについて勉強したい
 - 今後乳児の担任をするかもしれないし、医療的ケア児が入園するかもしれない。それに備えたい

事例を参考にすることがあるか

- ◆研修を受けた内容は報告書や職員会議で園に展開し、保育の場で活用している
 - 会議で「こういう時はこうしたいと思います」と発表し、実践している
 - 主任の保育士が受けた研修内容も、日々の保育の中で随時伝えてもらえる
- ◆園長会議で知った事例は、勉強会を実施
 - 皆で動画を見て「こういう時はどうするか」という話し合いをし、考える機会がある(年1回実施)

参考になる事例

- ◆他園の事例は、新しい考え方が学べる
 - いろいろな保育士の事例を見ることで「そういう考え方もあるのか」と思い、勉強になる

その他

- ◆園児の昼寝中にオンラインで受講できるなど、身近なところで受けられる研修を増やしてほしい
 - 実践がある研修でなければ、オンラインで受けることで時間短縮ができる。園にいる時間帯に受けられたら助かる

本報告書は、文部科学省の「幼児教育のデータ蓄積・活用に向けた調査研究事業」の委託費による委託業務として、株式会社電通が実施した令和4年度幼児教育のデータ蓄積・活用に向けた調査研究事業の成果を取りまとめたものです。
したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承諾が必要です。